

本イベントへの参加者からの主なご意見・ご提案

① イベントについて

- ・今まで知らなかった施策について知ることができた。
- ・今まで仙台ってこうあってほしいなとか思った事について今日この様な集まりにより、意見が言えた事が良かった。
- ・市民の意見を広く取り入れてアイデアを活用しようというスタンスが見え、より良いまちづくりをしようという姿勢が大変好感が持てた。
- ・市の説明では、もっと資料の奥にある細かい話を教えてほしかった。
- ・テーマが多すぎた。

② 今後の開催に向けた提案

- ・もう少し若い人に参加してもらえるようにしてほしい。
- ・説明時間が短い。質問の時間が欲しい。
- ・ファシリテーターの進行は大変良かったが、話し合う時間が不足していた。もう少しお互いの意見を聞ければと思う。
- ・もっと実りのあるものにするために1日開催としてはどうか。
- ・土曜日であれば保育所に子供を預けられるので、日曜日でも良い。
- ・専門家の先生のお話が興味深かったので、各テーマで話合う際に専門家の先生にもう少し入って頂けると良かった。
- ・他のグループと同じ部屋で聞こえにくい。グループ別の部屋を確保してほしい。

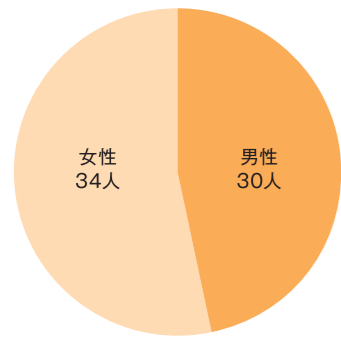
仙台市から

参加者アンケートの結果を見ますと、参加者の皆様には、市の施策を知っていただく良い機会になったことがうかがえます。私ども市職員にとっては、様々な視点から考えてみることの大切さを再認識する機会になりましたし、市の施策の取り組み状況を市民の皆様にはしっかりと伝えることの大切さを改めて感じるなど、有意義なイベントとなりました。

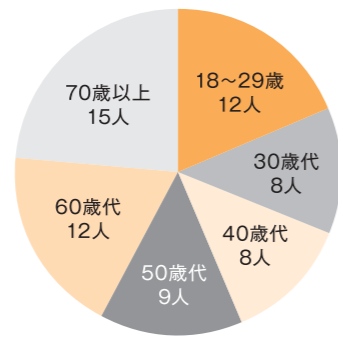
今後は、参加者の皆様からいただいたアイデアやご意見などを市役所内で共有し、今後の施策展開に活かしてまいります。また、市民協働のもとで本市の総合計画をいかに推進していくかという視点から、市民の皆様からご意見をいただく場のあり方を引き続き検討してまいります。

参加された方々 (参加者合計：64人/アンケート回答者62人)

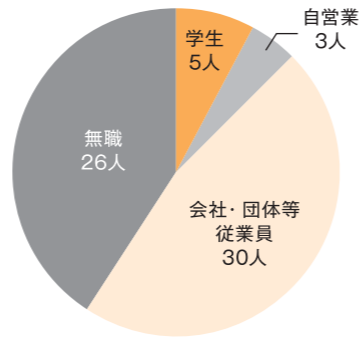
●性別



●年齢

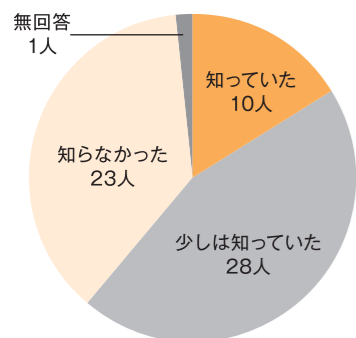


●職業

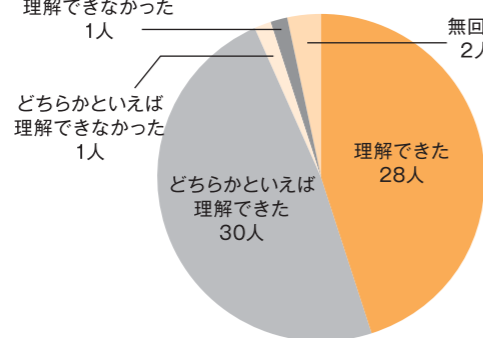


施策アンケートの集約結果 (イベント終了後に施策の評価をしていただきました。)

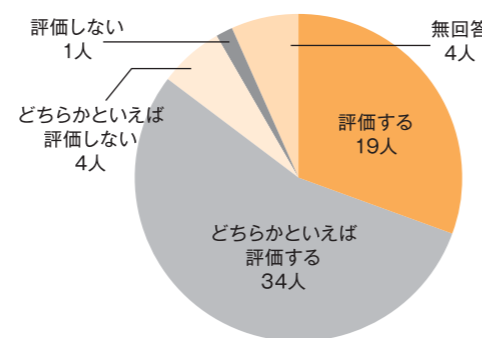
●施策の認知度



●施策の理解度



●施策に対する評価



報告書

市民まちづくりフォーラム

— 知ろう、語ろう、仙台の重要プロジェクト2014 —



日にち

平成26年11月9日(日)

時間

13:00~16:30

場所

TKPガーデンシティ仙台(アエル30階)
ホールD
仙台市青葉区中央1-3-1アエル30階



開催都市 仙台

主催：仙台市

仙台市まちづくり政策局政策企画部政策企画課

〒980-8671 仙台市青葉区国分町3-7-1

TEL.022-214-1268 FAX.022-214-8037

E-mail. mac001620@city.sendai.jp

国連防災世界会議

2015年 仙台 日本

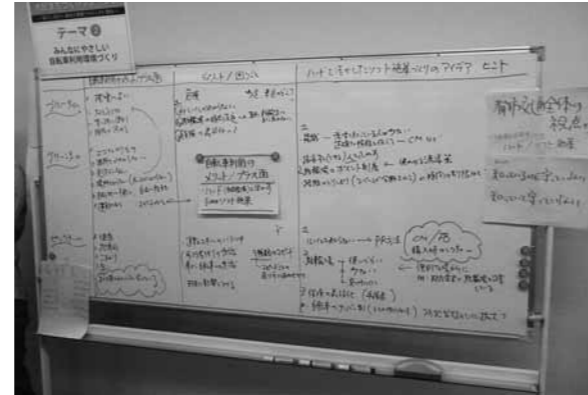
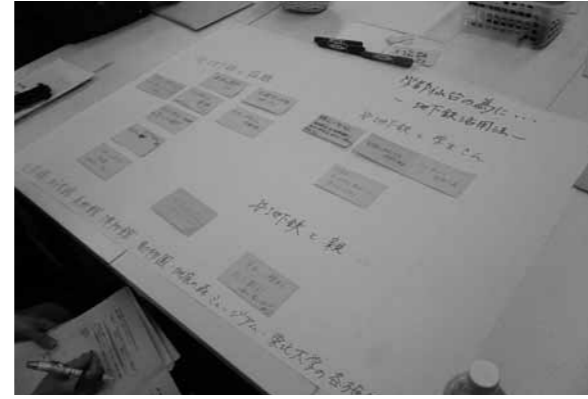
市民まちづくりフォーラムとは

仙台市は、平成 23 年 3 月に 21 世紀半ばに向けて目指すべき都市の姿を示す「基本構想」と、これを実現するための 10 ヶ年計画である「基本計画」を策定し、また、同年 11 月には、震災からの復興に向け、基本計画を補完するものとして「震災復興計画」を策定しました。

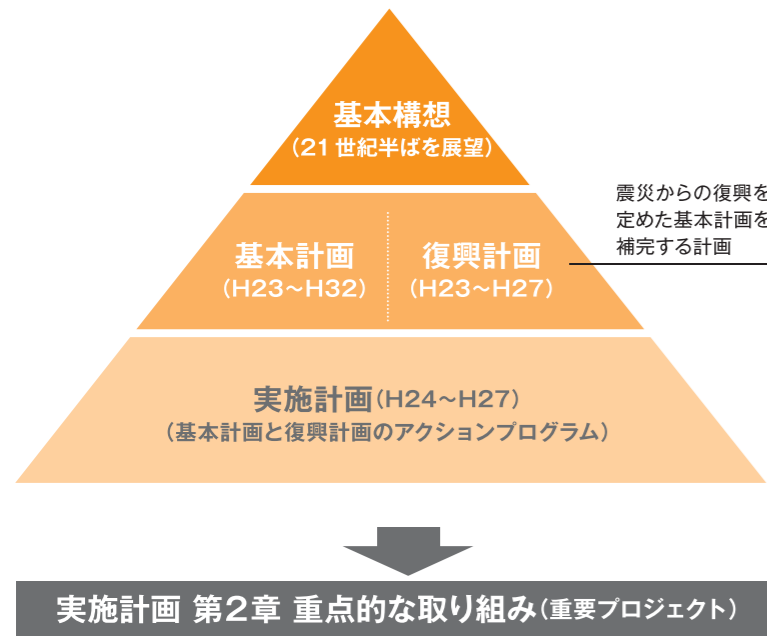
これらの計画に基づき、平成 24 年 3 月には、平成 24 年度から平成 27 年度までの 4 年間の具体的な取り組みと重点的に取り組むべき施策を定めた「実施計画」を策定しました。「実施計画」に定めた取り組みについては、ただ単に計画を作成して終わりではなく、重要な施策については、市民の方々と協働により評価・点検を行うこととしています。

このことを踏まえ、市民の皆様へ、現在仙台市が取り組んでいる重要プロジェクトの現状を評価していただき、より良い施策とするための課題などについてご意見など、ご提案をいただくことを目的に、市民まちづくりフォーラムを開催いたしました。

フォーラムの開催は今年度で 3 回目の開催となります。今回は、昨年度と同様にグループワーク形式で行いましたが、より充実した話し合いを行っていただくために、グループワークの進行を担当するファシリテーターに加え、各テーマの専門家にも加わっていただき、話し合いのアドバイスをもらえるようにいたしました。また、より多くの市民の皆様に参加していただくため、無作為に抽出した 3000 名の市民の方々に参加依頼状を送付し、ご承諾いただいた方々に参加していただく方法を初めて採用いたしました。実際には 85 名の方々にご承諾いただき、当日は 64 名の方々に参加していただきました。



仙台市の計画体系



平成 26 年度市民まちづくりフォーラムについて

仙台市の重要プロジェクトの現状を「評価」していただき、今後、より良い施策とするために課題などについてご意見など、ご提案をいただくことを目的として、グループワーク形式で開催

〈フォーラムの流れ〉

施策説明

各施策を担当する職員が施策の取り組み状況をご説明します。



専門家からのアドバイス

各施策の専門家から論点や問題点などを提起していただきます。



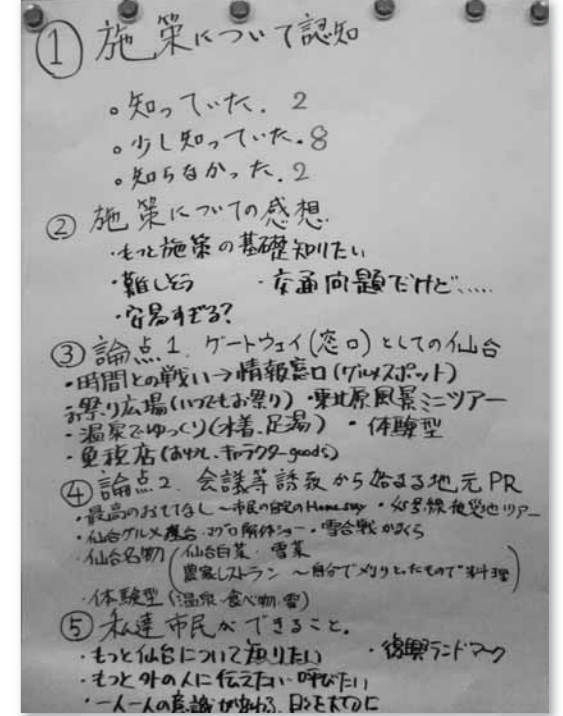
発表会

施策の評価や今後の展開についてファシリテーターの進行で参加者の皆様同士で話し合います。



施策説明

話し合った結果を他のテーマ参加者と共有してもらうため、発表会を行います。



タイムスケジュール

13:00	開会
13:00~13:10	オリエンテーション 10分
13:10~14:20	グループワーク ・ 施策説明 ・ 専門家からのアドバイス ・ テーブルトーク 70分
14:20~14:30	休憩 10分
14:30~15:20	グループワーク ・ テーブルトーク 50分
15:20~15:30	休憩、発表準備 10分
15:30~16:30	発表会 60分
16:30	閉会 ・ アンケート記入 ・ 解散



テーマ1 107万人で防災～107万人の「防災人」づくり

●主な説明内容

震災の教訓を踏まえて見直した「地域防災計画」をもとに、防災意識の普及啓発や自主防災活動の支援、新たな防災教育、地域ぐるみの避難所運営など、107万人の「防災人」づくりを推進する取り組みについて説明しました。



地域防災リーダーの役割

(1)地域防災リーダーとは

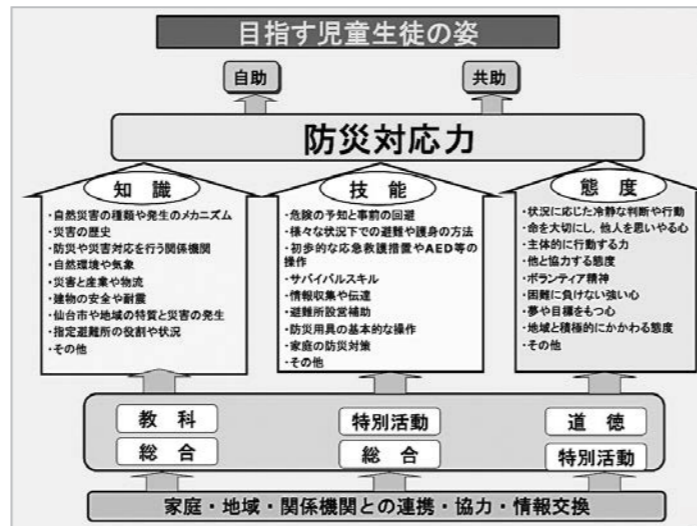
自主防災組織と協力しながら、地域の自主防災活動を推進・指導する役割を担う

(2)地域防災リーダーの必要性

- ・自主防災活動に様々な課題
- ・非常時に活動できる人材の育成と体制づくりの必要性

自主防災活動を推進・指導できる地域防災リーダーが必要！

独自のカリキュラムに基づき2日間の養成プログラムにより仙台市地域防災リーダーの養成を開始



●専門家からのアドバイス

仙台市が進める「防災人」づくりは、「地域防災」と「学校防災」の2つを重要な柱としている。

地域防災のキーワード「地域防災リーダー（SBL）」とは、地域の方々や自主防災組織と協力しながら、地域の自主防災活動を推進・指導する役割を担う人のこと。震災後、仙台市では養成を進めており、その役割や期待は今後も大きくなるはずだ。学校防災では、これまでのような避難訓練だけではなく、学年に応じた副読本や特別活動を通して、自らの命を守り、互いに助け合う新たな防災教育に取り組んでいる。

震災後に推進されてきた「地域防災」「学校防災」のそれぞれをさらに発展させていくには、SBLが繋ぎ手となり2つを上手く融合させていくことが必要だ。

地域防災と、学校防災のこれまでの取り組みと現状の問題点をあげ、防災人づくりとはどうあるべきか提案する。

Advice from experts



テーブルトークの結果

地域防災について

問題点は地域によって防災意識の差があること。被災状況の差による温度差や震災から月日が経ったことによる意識の薄れ、また高齢化により訓練などが難しくなるケースもある。特に自分の町内の防災リーダーが誰か分からないという現状がある中、「顔の見える地域づくり」こそ、地域防災の基本だと思う。

学校防災について

現在、学校と地域の合同防災の訓練実施が増えている。学年によって理解できる範囲が違うことへの対応は難しいが、子どもの対応力は大きいと感じている。災害時に避難所になる学校ではボランティアの協力が必要である。今後も体験型の学習やワークショップ、保護者参加型の防災訓練の実施について一層の推進を図ることを提案する。

防災人の育成について

学校、行政、民間企業とSBLが協力し災害に備えながら「顔の見える地域づくり」をすすめてはどうか。

●参加者からの主なご意見



- ・防災に取り組んでいる町内会組織や防災リーダーのPRを多くして欲しい。
- ・市の取り組みを一部の人が知っているということではダメ。様々なメディアを活用することも必要。
- ・顔の見える地域作りが重要。地域のつながりができるような環境育成にも配慮して欲しい。地域の企業を巻き込む活動も必要。
- ・地域に依存しすぎているので、市、地域それぞれの立場で取組む役割を明確にして欲しい。地域や教員だけではなく広い人材の活用も考えられる。

専門家から

東北大学災害科学国際研究所
情報管理・社会連携部門
災害復興実践学分野
教授

佐藤 健氏



次世代を担う子どもたちに対する防災教育と、地域防災力の高度化に向けた仙台市地域防災リーダー（SBL）に対する市民からの期待が高いことが分かった。自然災害は、地域の自然環境に大きく依存する。防災意識を高めるには、子どもだけでなく大人も地域ごとの自然環境と歴史を理解することが重要だ。107万人の「防災人」づくりは、107万人の地元・郷土・地域が好きの人づくりによって実現するものと思う。

ファシリテーターから



一般社団法人こはく 代表理事
岩井 秀樹氏

参加された市民の方は、防災・減災に対して強い関心を持っており、活発に現状の課題や今後の取り組みに関する提案をしていた。震災を経験し、何かの形で市の防災・減災への取り組みに貢献したいという強い気持ちが伝わってきた。また、自助・共助の観点から市民自らできることがたくさんあることにも気づかされた。防災・減災というテーマで、日頃から地域のみんなが学校や行政、企業も交えて話し合うことが大切で、そのような場づくりが「107万人の防災人づくり」への近道になると感じた。

テーマ担当職員から

主婦の方や学生など、様々な立場の方から、「色々な交流の場を通し、顔の見える関係づくりが地域防災には必要不可欠」といった前向きなご意見を数々伺うことができ、非常に有意義なディスカッションとなりました。新たな防災教育を推進していくにあたっては、学校・家庭・地域の三者がお互いに「顔の見える関係づくり」に努めていくことが大切であることを改めて認識いたしました。

テーマ2 みんなにやさしい自転車利用環境づくり

●主な説明内容

自転車が加害者となる交通事故が増加する状況等を踏まえ、「杜の都の自転車プラン」に基づいた、自転車利用者のルール遵守・マナー向上を図り、あわせてハード面の整備を進め、安全・安心な自転車利用環境の実現に向けた、みんなにやさしい自転車利用環境づくりを推進する取り組みについて説明しました。



「杜の都の自転車プラン」プランの策定

- 策定:平成25年7月
- 目標年次:平成32年度
- 目標:みんなにやさしい自転車利用環境づくり

基本方針

1. 協働による安全に自転車を利用する意識づくり
2. 安全・安心な道路空間の形成
3. 路上放置の削減と利便性の高い駐輪空間の創出
4. 自転車の楽しさを感じられる環境づくり



平成26年度の主な取り組み モデル事業の実施概要

- ▶実施者 各区、警察、学校、企業、町内会、関係団体等
- ▶実施箇所 市内11地域
- ▶実施内容 交通ルール、マナー啓発事業
定期的な遵守率調査
- ▶実施時期 平成26年4月～平成28年3月末



自転車教室(長町地域)



自転車教室(通坊地域)



留学生向け交通安全教室

街頭キャンペーン(八幡地域)

●専門家からのアドバイス

仙台市では平成26年4月に市民局に自転車交通安全課を新たに設置し、平成25年7月に「杜の都の自転車プラン」を策定。ハード（施設や環境づくり）、ソフト（マナー向上など）両面から自転車の利用を促進している。震災後にエコで便利な足として自転車の利用が増えたが、そもそも利用するメリットは何かということから考えたい。

自転車を利用する人だけでなく、利用しない人にも安全・安心なみんなにやさしい自転車環境づくりのため、既存のハードを活かすソフト施策について話したい。それには地域と行政の連携がカギとなるはずだ。

自転車利用する上でのメリットとデメリットを上げ、仙台市の施策と照らし合わせて課題の解決法を探る。

Advice
from experts



テーブルトークの結果

自転車を利用するメリット

健康増進につながり、手軽で便利。自転車の快適な利用を進められれば、環境にもやさしい自転車は「杜の都」のイメージにも合致する。

自転車を利用する際の問題点と提案

自転車のマナー違反が多いのは、ルールの周知が徹底されていないと考えられる。購入時のレクチャーや指導者を増やし、CMやフェイスブックなどのインターネットを活用したPRをしてはどうか。

放置自転車などの問題は、駐輪場が足りなかったり、場所がわからなかったり使いづらいことがあげられる。駐輪場の利用料金をポイント制にしたり、中心部の民間ビルが設置している駐輪場をもっとPRしたりして、駐輪場を使いたいという意識を高めるのがいいと思う。

事故を起こした際の「賠償保険」を義務化してはどうか。運転する人のスキルの違いや、ロードバイクやシティサイクルなど自転車の種類に応じて、保険を区分するのがよい。併せて啓発内容も変える必要がある。

また、匿名性を排除するために自転車をナンバー登録制にするというアイデアも出た。

●参加者からの主なご意見



- ・駐輪場が地下にあったり、二段になっていて、年配者には使いにくい。利用者が使いやすいように工夫すべき。
- ・自転車はエコで環境に優しい。「杜の都」のブランドイメージの中に自転車を組み込んでみてはどうだろうか。
- ・自転車のナンバー登録制は良いアイデアだと思った。
- ・施策は良いが周知されていないのが現状だと思う。もう少し積極的にPRしても良いのでは？

専門家から

東北工業大学工学部
都市マネジメント学科
准教授

菊池 輝氏



自転車は「曖昧な」乗り物だ。環境や健康に良い乗り物として評価される一方で、走行・駐輪マナーの悪さが目立ち、批判されることもある。そんな曖昧な自転車を都市・交通という大きな視点から捉え、ひいては杜の都における自転車の社会的位置づけを早く決めることが重要。その上で自転車のメリットを活かしつつ、マイナス面をいかに最小化していくのか。協働で具体的な施策を積み上げることが必要だ。

ファシリテーターから

コミュニティ・ワークス
代表

青木 ユカリ氏



参加者の皆様は歩行者、車を運転する側からの視点も加え、大変前向きに議論していた姿が印象的だった。利用者としてルールやマナーを分からないままでは済まらず、自ら学び点検することは必須。また、地区・地域で注意を促し、気に掛け合う関わり合いを生み出すことも必要だ。それらを促す情報ツールを行政がサポートすることができる。すでに作成している啓発パンフやマップも誰がどんな使い方をするかによって編集の視点も変わってくると思う。

テーマ担当職員から

ご参加された方の中には、ルールを守らない自転車利用者に怖い思いをした方も多くおり、自転車のルール・マナーの周知について、様々な広報手段を活用し、もっと積極的に発信しなければならぬと痛感しました。

「『杜の都』のブランドイメージと自転車がよく合う」という貴重なご意見もいただきました。「杜の都」を市民の皆様が楽しく笑顔で行き来できるよう、「みんなにやさしい自転車利用環境づくり」を進めていきたいと思っております。

テーマ3 高齢者がいきいきと活躍するまちづくり

●主な説明内容

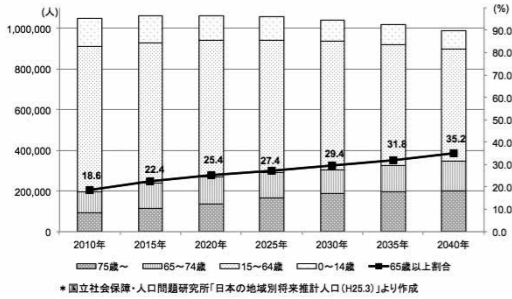
高齢者が生きがいを持ち、積極的に暮らすことのできる豊齢力の向上を図るため、さまざまな機関・団体と連携しながら実施している取り組み、また、少子高齢化が進み、働き手となる生産年齢人口が今後ますます減少する可能性があることを踏まえ、高齢者が社会の担い手として活躍するまちづくりを推進する取り組みについて説明しました。



本市における高齢化の状況

【将来人口の推移】

高齢化は、確実に進展しています。平成26(2014)年4月1日現在の65歳以上の高齢者人口は、21万6,548人(前年同期20万7,337人)となり、人口全体(104万6,192人)に占める割合(高齢化率)は、20.7%(前年同期19.96%)と、20%台に乗りました。



現在の施策の取組状況

仙台市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成24年度～平成26年度)

【基本目標】

高齢者が尊厳を保ち、健康で生きがいを感じながら、地域での支え合いにより、安全に安心して暮らすことができる社会の実現

【施策の柱】(抜粋)

- 生きがいづくり・社会参加の促進
- “豊齢力アップ”を目指した介護予防・健康づくりの推進
- 「地域の支え合い」への支援

- ↓
- ◎ 豊齢力の向上を図るためのさまざまな機関・団体と連携し実施している取り組み
 - ・ 介護予防事業
 - ◎ 高齢者が社会の担い手として活躍するまちづくりを推進するための取り組み
 - ・ 地域支え合いボランティア団体活動支援事業

●専門家からのアドバイス

仙台市の高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(平成24年～26年)は、高齢者が尊厳を保ち、健康で生きがいを感じながら、地域での支え合いにより、安全に安心して暮らすことができる社会の実現を基本目標とし、施策の柱を立てている。まずこの施策の良い点や改善点をあげてみたい。また高齢者の一人暮らしが増える中、地域との関わりを促進し自身の介護予防にもなる「高齢者の生きがいと社会参加」について、現在の取り組みが見えないと感じているがどうか。今後の施策に生かせるよう社会参加について話し合いたい。

施策の中でも「生きがいと社会参加」「社会の担い手として活躍するにはどうしたらいいか」の2つの議題に絞って改善点を話し合った。

Advice from experts



テーブルトークの結果

市の施策について

高齢者の健康など相談業務やコーディネートをする地域包括支援センターや、高齢者の介護予防に取り組む地域グループを支援する介護予防自主グループ支援事業などの取り組みは評価できる。だが、PRが不足しているのではないかと。65歳以下、前期高齢者、後期高齢者など、年代ごとに異なる関心や状況に合わせ周知させる工夫が欲しい。

生きがいと社会参加について

趣味や就労、社会奉仕活動など、生きがいには個人差がある。より多くの人の社会参加につながる施策や地域の取り組みや活動団体について、データをきめ細かく収集し、隅々まで情報を知らせる工夫が必要だ。市町村やNPO、個人が作る小さな団体までネットワークをつなげて、広報を上手く使ったり、声掛けしたりしてはどうか。また、多くの人が社会参加したいと思うようになるには、企画力があり、人を集められるリーダーづくりが必要だ。

●参加者からの主なご意見



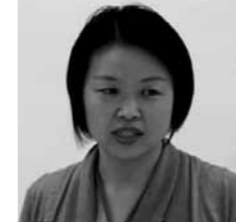
- ・ 施策を担う仙台市の職員の頑張りを評価したい。ただ、様々な施策アイデアも一部の方だけのものという印象がぬぐえない。市民全体もしくは弱い立場の方々が活用できるものであってほしい。
- ・ 次世代の子供たちに年上を敬う気持ち、弱者を助ける思いやりの気持ちなどをあきらめずに伝える。他者と関わり合い助け合うことの心地よさを特に若い方々に広めて欲しい。
- ・ 高齢者を活用していく手段も話合いがかった。高齢者に地域、学校等で活躍の場を作って生き生きさせてほしい。

専門家から

特定非営利活動法人
福祉ねっと宮城 事務局長
藤田 佐和子 氏

今回初めて市民フォーラムに参加させていただいたが、市民が市政を評価した上で、どうしたらいいかをともに考えていく画期的なスタイルに驚いた。まさに市民フォーラムだと感じた。ただ、限られた時間の中ではテーマを絞って話すしかなく、テーマに関心を持って参加された方々は、もっと語りたかったらうし、質問も出せずにいたように思う。仙台市にはこの席で出た生の声にも耳を傾け、市政の参考にして欲しいと思う。

ファシリテーターから



地域社会デザイン・ラボ
代表
遠藤 智栄 氏

参加者の皆様は、普段の生活やこれまでの経験、今後自分が向かうであろう将来を正面から受け止めた上で参加されていた。そのため、高齢者福祉政策全般について「知りたい」気持ちがあることが十分に伝わってきた。話し合いの中では、仙台市や専門家の情報提供に始まり、自分の問題意識を少人数のメンバーで対話・共有できたことで、高齢者福祉政策への関心がさらに深まったのではないかと。今後も関心を持つ人をさらに増やし、当日参加者から出された意見が1つでも実現に向かうことを期待する。

テーマ担当職員から

今回ご紹介した「介護予防自主グループ支援事業」について、良い取り組みとの評価をいただいた一方で、施策の内容が市民の皆様には知られていないことを実感しました。今後ますます増える高齢者の方々がいきいきと活躍できますよう、施設や活動団体の情報を浸透させていくためのネットワークの構築や、活動を魅力あるものとするためのリーダーとなる人材の育成など、いただいたご意見を今後の取り組みの参考にしてまいりたいと思います。

テーマ4 「子育て応援社会」の実現

●主な説明内容

待機児童の解消に向けた保育基盤整備や多様な保育サービスの充実、児童館での子育て支援などの取り組みについて説明しました。

また、男女ともに子育てと仕事を両立できるワーク・ライフ・バランスの推進や、起業支援などの取り組みについても説明しました。



保育基盤の整備 ～仙台市すこやか子育てプラン2010～

仙台市では、平成22年3月に「仙台市すこやか子育てプラン2010」(H22～26)を策定し、保育基盤の整備や多様な保育サービス等の拡充を図り、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりを目指して取り組んでいます。

- 子育て世帯が増加し、保育需要の増が見込まれる地区を中心に全年齢型認可保育所及び3歳未満児専用認可保育所の創設整備を計画的に進め、定員の拡充を図っています。
- せんだい保育室事業の実施、事業所内保育事業の実施、家庭保育福祉員の増員などによって保育基盤の拡充を図っています。
- 幼稚園での「預かり保育」を実施し保育ニーズの多様化に対応しています。

保育基盤の整備状況(定員数)	目標	実績				
	27年度当初	26年度当初	25年度当初	24年度当初	23年度当初	22年度当初
認可保育所	12,850	13,130	12,660	12,425	12,045	11,230
せんだい保育室	2,760	2,461	2,550	2,559	2,554	2,468
家庭保育福祉員	350	276	238	231	215	190
事業所内保育	690	791	788	733	706	641
合計	16,650	16,658	16,236	15,948	15,520	14,529

仕事と子育ての両立を支援する取り組み ～男女共同参画の視点から～

「男女共同参画せんだいプラン2011」
6つの基本目標のうち2つ

- ◆ 男女の仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現
- ◆ あらゆる分野への男女の参画機会の確保

男性の家事・育児への参加促進
女性の就労継続・再就職の支援促進

市民局市民協働推進部 男女共同参画課

●専門家からのアドバイス

ひとり親世帯や、親が心身を患っている世帯、障害がある子を持つ世帯、核家族世帯など、さまざまな世帯に対して子育てに関する支援が必要とされている。

子育ての目的は、子どもたちが大人になったとき、自分の力で生きていけるように育てることだと考えるが、そこでいずれの世帯にも共通して大切なのは、親子間の愛着の形成だ。

本日はこの観点も踏まえ、子育て応援社会の実現のために必要なことについて、「保育・教育サービスの混合」と「親子支援、親への支援」をテーマに話し合いたい。

Advice from experts



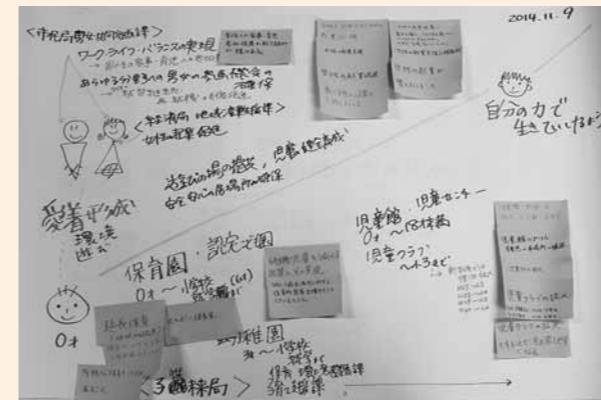
テーブルトークの結果

保育・教育サービスの一体化について

保育所での保育と幼稚園での教育を分けることなく、両方の機能を一体的に行うことができれば良いのではないかと。保育・教育施設に求めるのは、「小さい頃から人と交わることができる場」「食育など勉強以外のことを学べる場所」「保護者と子育ての情報共有できる場所」であり、多様な子育ての場や支援組織が増えることが大切だ。

親子支援、親への支援について

現状の支援サービスは「親のニーズをとらえているか」、「悩みや意見交換の場など話せる場があるか」が論点になった。支援センターに積極的にいけない、子育てに対する意識の低い親をどうやって孤立させずに支援の輪に入れることができるか。顔の見える関係が重要だと考える。



●参加者からの主なご意見

- ・ 仙台市が子育て社会に対して様々な取り組みを行っていることを知ることができた。
- ・ 少子化が進んでいるのに子供を産みたくても産めない社会、働きたいのに働けない社会はおかしいと思っていた。しかし、仙台市も様々な取り組みを計画しているという事なので期待したい。

専門家から

特定非営利活動法人
FOR YOU にこにこの家
代表

小岩 孝子氏



「子育て応援社会」の実現は、未来への大きな架け橋になると思っている。仙台市の重要プロジェクトを仙台市民へ伝えること、そして課題を市民と共に語り合い、共有するなど市民協働の輪を広めるフォーラムだった。平成27年度からの「子ども・子育て支援新制度」も踏まえ、命を宿ったときから社会へと歩む成長段階に応じたさまざまな取り組みを、仙台市全体で連携して進めていくことが望まれていると思う。

ファシリテーターから

特定非営利活動法人
まなびのたねネットワーク
代表理事

伊勢 みゆき氏



参加者の属性や立場を考慮すると、仙台市の取り組みの全体像を把握する必要があった。まずそれぞれの部局担当者4名より、誰に対して、どのようなサービスを提供しているかを丁寧に説明していただくことで見える化し、理解しやすくする工夫をした。このフォーラムで出た提案が、来年度以降、具体的にどのように施策に反映されたのか、市民に伝えていただきたい。全ては、私たちが住む仙台市のため、未来を担う子どもたちのために。

テーマ担当職員から

「子育て応援社会」の実現は、誰に対しての政策なのかという切り口から、いろいろなご意見を伺うことができました。保護者と支援者が互いに情報を共有できる場所づくりや、悩み事などを相談できる「顔の見える関係づくり」など、多くのヒントを頂いたほか、ワーク・ライフ・バランスや女性が活躍できる地域社会といった論点にも関心が高く、説明させていただいた各施策に対して、今後の展開が期待されているとの印象を受けました。

テーマ5 「ウェルカム! 仙台・東北」でおもてなし

●主な説明内容

仙台・東北の経済成長のために重要な産業である観光。「市民の皆様が愛着を持って世界に誇れる観光都市」を目指し、まちの魅力を活かした国内外からの誘客及びコンベンション誘致とおもてなしにより交流人口の拡大を図る取り組みについて説明しました。



❖ **新たな取り組み～「ウェルカム! 仙台・東北」**

◎ 「**仙台経済成長デザイン**」の中のプロジェクト
：「**ウェルカム! 仙台・東北**」とは?

↓

平成25年度から平成29年度にかけての、仙台経済の新たな成長に向けた戦略デザインのこと。4つの数値目標と、9つの戦略プロジェクトからなる。

↓

「**仙台経済成長デザイン**」のうち、観光分野において「**市民が愛着を持って世界に誇れる観光都市**」を目指すプロジェクトのこと。

❖ **市民一人ひとりが観光大使!**

- ・「市民」と「観光」は関係あり!
国内外からの観光客に対して、このようなことを話していませんか…?

↓

「仙台はお城も残ってないし、見る所はあまりないんだよね。」

↓

伊達政宗公の騎馬像を見て、牛たんを食べて、その後松島に行けばいいんじゃないかな。

- ・「定番」以外は自信をもってお薦めできていない…?
- ・市民が「当たり前」と感じているものの中にも、他都市の方に誇れるような、魅力的な観光資源があるはず!

↓

地元の人が 地元の魅力を語れる → 他地域に魅力を発信できる → 仙台のファンが増える

●専門家からのアドバイス

「仙台経済成長デザイン」(平成25年～29年度)では、観光分野において国内外からの年間観光客(コンベンションを含む)2300万人を目指している。仙台市が目指す「市民が愛着を持って世界に誇れる観光都市」のために市民一人ひとりができることは何か。大切なのは、訪れる人にとって、有名な観光地ばかりでなく、そこに住む人が日常で楽しんでいる場所やコトが立派なアトラクションになるということだ。どれだけ多くの人に仙台に興味を持ってもらい、目的地にしてもらえるかは、それぞれが自分の好きな仙台のベストスポットを持ち、それをどう情報発信していくかにかかっている。

東北観光における仙台の位置づけと、平成27年3月の国連防災世界会議の前後のエクスカージョンを具体的に考えることで、コンベンションだけで終わらないコンベンションを提案する。

Advice from experts



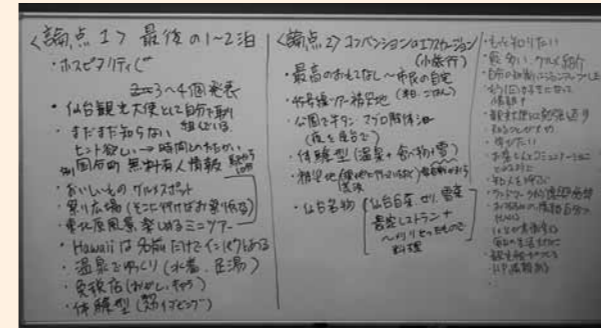
テーブルトークの結果

東北観光における仙台の位置づけ

仙台は東北旅行の最初または最後の1日に立ち寄るゲートウェイであることが分かった。友人・知人が来仙した際は、多くの人がそれぞれミニ観光大使のような経験をしていると思うが、さらに仙台を楽しめる情報を共有し、知識を高める機会が欲しい。仙台のイベントや魅力を紹介する常設のミニ博物館のようなものがあれば、いつでもそこに案内でき、情報発信がしやすいのではないかと。

国際会議のエクスカージョンについて

国際会議参加者の多くは家族連れで仙台を訪れると思われるので、仙台の食を楽しんでもらいたい。例えば仙台の野菜を料理して食べる体験型の農家レストランなどはいかがでしょうか。



専門家から

株式会社ライフブリッジ
代表取締役
櫻井 亮太郎氏



観光という大きなテーマだったため、最初は参加者に戸惑いも見られたが、冒頭の仙台市からの説明により、議論のテーマが明確になった。テーブルトークでは参加者が小グループになり、仙台、宮城、東北の魅力を語ったが、改めて仙台市が持つポテンシャルについて考える機会になったのではないかと。そして市民一人ひとりが地元の魅力を語ることが、最終的に国内の旅行者はもちろん、海外からの観光客の増加につながるのと共通認識を得ることができた。

ファシリテーターから

Sanca Process Design
代表
依田 真美氏



年代や性別、職業などが多様な方々が集まったが、誰もが観光を「自分ごと」と捉え、日頃から色々と考えていることが、活発な意見交換から伝わってきた。「自分自身ももっと仙台のことをよく知って、周りの人に伝えたい」という声も多く、継続的な学びや意見交換の場の必要性を感じた。市民一人ひとりが仙台に誇りを持ち、日々の暮らしを楽しむことが、市だからこそできる国内外大型誘致の競争力をも高める底力であることを確信した時間だった。

テーマ担当職員から

仕事柄お客様を案内する機会のある方や観光地付近にお住まいの方など、様々な立場の方からご意見を伺うことができました。参加された方から「もっと仙台について知りたい、情報が欲しい」というご意見をいただき、地元の魅力を地元へ周知するということの重要性を改めて認識いたしました。市民の皆様が誇りをもって仙台を紹介する「観光大使」となっていたらいいと思います。

●参加者からの主なご意見



- ・全体的に情報が市民に行き渡っていない。学校などでPRしてみてもどうか。
- ・案内する側も地元の魅力や情報を仕入れて学ぶ事が重要。
- ・仙台の観光を盛り上げるのはとても重要だと思うが、増加した観光客を受け入れるインフラが整っていないように感じる。観光客が移動に費やす時間を減らすための対策が必要。

テーマ6 地下鉄東西線を活かしたまちづくり

●主な説明内容

平成27年の地下鉄東西線開業を見据えながら、暮らしやすく、魅力・活力・個性のあるまちの創造に向けて、施設整備等によるハード整備や市民協働等によるソフト面の施策など、東西線を活かしたまちづくりに向けた取り組みについて説明しました。



地下鉄東西線 平成27年開業

平成27年、地下鉄東西線が開業します。昨年7月にトンネルが完成し、現在は駅舎の内装工事など完成に向けた作業が着々と進んでいます。

パブリック、ユニバーサルデザインを採用。

デザインコンセプトは「自然と調和し、伊達の歴史を未来へつなぐ」。

新たな東西線プロジェクト

2014年3月、スタート

“みんなで作る みんなの地下鉄”

仙台市地下鉄東西線「WEプロジェクト」

WEプロジェクトとは
○東西線のWest(西)とEast(東)
○「We(私たち)」

WEプロジェクトの3つの柱
W SCHOOL
W TUBE
W STUDIO

市民みんなが参加できるプロジェクトを目指していきます

WEプロジェクトのプロモーションビデオ

◆公式WEBサイト <http://we-sendai.jp>
◆Facebook「WE Sendai」 <https://www.facebook.com/wesendai>
◆Twitterアカウント「WE SENDAI」 アカウント@we_sendai

●専門家からのアドバイス

仙台市では地下鉄東西線開業に向けて、市民協働のまちづくりを進めている。ここでは、これまで公共交通のネットワークが弱かった地域に、新たに地下鉄ができることのインパクトや価値を考えたい。地下鉄でつながるまち、人の交流の相乗効果で生まれる価値とは何か。魅力ある駅(まち)があり、それらを繋ぐ東西線の利用イメージは、単なる住まいと職場の往復の利用だけではないはずだ。地味ながらも地下鉄は仙台という都市の空気を伝えるメディアであり、地下鉄を使うことで市民としてのプライドが高まっていくことが期待される。

駅ごとのまちの地域資源の掘り起しと、キャラクターの異なる駅同士を組み合わせることで生まれる地下鉄利用の楽しみや、実施に向けて市民ができることなど。

Advice from experts



テーブルトークの結果

「スポーツの仙台」を発信する

(地下鉄南北線を含む)駅の近くにはスポーツ施設が多い。自分がスポーツをするときやプロスポーツを観戦するとき利用することで、他の乗客にも仙台のスポーツ環境について伝える役割を担えるのではない。

通勤・通学的手段だけにしないことについて

観光利用を増やすために、マップや駅内の看板、デジタルサイネージを使って周辺のお店の情報を知らせる。また、駅ごとにコンシェルジュをおくのはどうか。Wi-Fi環境を整え、情報を入手しやすいアプリの開発も考えられるのではない。

「学都・仙台」を発信する

一例だが、「子どもたちの夏休みの宿題は地下鉄に乗って完成させる」という企画を立ててはどうか。宿題のために博物館や美術館などに割引キップで行けるほか、大学生を巻き込み、地下鉄で講師をしてもらうなどして地下鉄利用で宿題が完成したら面白いのでは。

専門家から

東北大学大学院工学研究科
都市・建築学専攻
都市・建築デザイン学講座 准教授
本江 正茂氏



今回の参加者は住民基本台帳から無作為に抽出し依頼した方々であり、様々な世代がバランスよく集まった印象を持った。議論を通じ、仙台市の地下鉄がもたらす新結合のイメージとして、3つの都市像を取り出すことができた。地下鉄の日常的な乗車体験はそのまちの雰囲気を如実に表す。乗るたびに「このまちはスポーツが盛んで、見どころが多く、みんなが熱心に学んでいるんだ」と感じられたら、その蓄積は仙台市民としてのプライドを高めることにつながっていくだろう。

ファシリテーターから



田中 聡子氏

「駅×駅→新たなつながりが生まれる」というまちづくりの新しい視点を得て、多様なアイデアや意見が多く出された。どの議論にも共通して出てきたキーワードは「情報」だ。「どこに何があるかわからない」という現状を「あそこには〇〇があるから地下鉄に乗って行ってみよう」と変えるべく、何をすべきか。既にある施策も含めて、地下鉄とまちづくりの可能性について、市民一人ひとりは何ができるかを一生懸命考えた機会になったようだ。

テーマ担当職員から

グループワークにおいて提案いただいたアイデアは、新鮮なものがたくさんあり、これからの東西線沿線のまちづくりにおいて参考になるものばかりでした。今回のように主体的にまちづくりに参画していただく市民の方が多ければ多いほど、東西線を含めた仙台市全体が魅力的なまちになっていくと思います。平成27年の東西線開業に向けて、これからも一層市民の方と連携しながら、東西線を盛り上げていけるよう頑張っていきたいです。

●参加者からの主なご意見



- ・今まで知らなかった施策について知ることができた。広報活動が大切なのではないか。関心の低い人にどうやって知ってもらうかが問題。
- ・JR線沿いの人でもわざわざ乗りに行きたくなくなるような地下鉄にしたい。特に行事もない通常の日でも乗ってもらえる楽しさを作り上げたい。
- ・車を使えない交通弱者・高齢者を郊外からまちなかへ集める取り組みが重要である。